

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
宇都宮市	国本地区	令和3年3月29日	令和4年10月1日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	623 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	324 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	194 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	38 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	111 ha
④地区内において今後中心経営体及び農地の守り手・支え手が新たに耕作する意向のある面積の合計	84 ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・70歳以上の農業者の耕作面積のうち、後継者のいる耕作面積は23%であり、後継者不足が課題となっている。 ・中心経営体へ農地の集積・集約化を進めるとともに、中心経営体以外の規模拡大の意向がある農家にも、農地の集積・集約化を進め、地域全体での営農の継続に取り組む必要がある。 ・圃場整備が進んでいない地域では、不整形で効率が悪い農地が多く、遊休農地が発生しており、担い手へのスムーズな集約のために圃場整備が必要である。
--

3 対象地区内における中心経営体等への農地の集約化等に関する方針

<p>地区全体</p> <p>中心経営体、「農地の守り手・支え手」の経営規模拡大・営農継続を図り、多様な担い手を増やしていく。</p>
<p>宝木本町地区（市街化区域）については、中心経営体以外の中規模農家が多く、これらの農家を「農地の守り手・支え手」として位置付け、中心経営体と併せて農地の集積・集約化を図ることで、限られた農地の有効活用を図り、営農継続・農地保全に取り組む。</p>
<p>宝木本町地区（市街化調整区域）については、中心経営体が多く、農地の集積・集約化が進んでいる。「農地の守り手・支え手」と併せて、引き続き集積・集約化を進めながら、経営規模拡大・担い手の育成に取り組む。</p>
<p>新里地区については、土地改良事業により圃場整備が進んでおり、中心経営体へ農地の集積・集約化を図り、営農継続・経営規模拡大に取り組む。中心経営体の他にも規模拡大の意向がある小規模農家がいることから、これらの農家を「農地の守り手・支え手」として位置付け、中心経営体と併せて農地の集積・集約化を図る。</p>
<p>岩原地区については、圃場整備が進んでいないため、不整形で水利が悪く、耕作の継続が難しい農地が多い。担い手への農地の継承に向けて、これらの効率の悪い農地の解消を目指し、圃場整備に取り組む。</p>

中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		計画		備考
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	
認農		水稻, ねぎ	3.7 ha	水稻, ねぎ	5.7 ha	
認農		トマト, 水稻	5.1 ha	トマト, 水稻	5.5 ha	
認農		スイートコーン, さつまいも	1.5 ha	スイートコーン, さつまいも	2.5 ha	他地区あり
認農		水稻, ねぎ	7.5 ha	水稻, ねぎ	9.0 ha	
認農法		苺	1.0 ha	苺	1.3 ha	
認農		水稻, 梅, 栗	12.0 ha	水稻	12.0 ha	
認農		水稻, 麦, そば	23.0 ha	水稻, 麦	24.0 ha	
認農		トマト	0.3 ha	トマト, 水稻等	27.3 ha	
認農		水稻, ニラ	7.5 ha	水稻, 麦	15.0 ha	
認農		水稻, 麦	20.0 ha	水稻, 麦	20.0 ha	
認農		水稻, 野菜	4.0 ha	水稻, 野菜	4.0 ha	
認就		ミニトマト, 春菊	0.1 ha	ミニトマト, 春菊	0.1 ha	
認農法		ねぎ	1.0 ha	ねぎ, 野菜	2.0 ha	
認就		苺	0.1 ha	苺, ちご	0.1 ha	
認農		水稻・麦・大豆	9.5 ha	水稻・麦・大豆	10.0 ha	他地区あり
認農		水稻, さつまいも等	1.6 ha	水稻, さつまいも等	1.6 ha	
認農		ねぎ, 生姜	2.0 ha	ねぎ, 生姜等	2.4 ha	
認農		ねぎ, 水稻	1.0 ha	ねぎ, 水稻	1.5 ha	
認農		水稻, 野菜	8.7 ha	水稻, 野菜	12.7 ha	
認農		水稻	7.0 ha	水稻	7.0 ha	
認就		甘藷	1.2 ha	甘藷	2.5 ha	
認農		水稻, トマト等	4.5 ha	水稻, トマト等	6.0 ha	
認農		水稻, 野菜	8.0 ha	水稻, 野菜	9.2 ha	
認農		水稻	3.8 ha	水稻	5.8 ha	
認農		水稻, 麦	20.0 ha	水稻, 麦	27.0 ha	他地区あり
認農		水稻, 麦, トマト 花苗 25,000ポット	5.3 ha	水稻, 麦, トマト等 花苗 20,000ポット	5.8 ha	
認農		水稻	2.7 ha	水稻	10.0 ha	
認就		ねぎ	0.7 ha	ねぎ, ニラ	4.0 ha	
認農		苺	0.3 ha	苺, ちご	0.4 ha	
認農		水稻	2.0 ha	水稻	6.0 ha	
認農		水稻, 野菜	1.5 ha	水稻, 野菜	1.5 ha	
認農		原木椎茸 加工用葡萄	5,000本 0.7 ha	原木椎茸 加工用葡萄	5,000本 3.0 ha	他地区あり
認農		筍, ベリー, 栗	24.0 ha	筍, ベリー, 栗	24.0 ha	
計	33人		191.3 ha		268.9 ha	

農地の守り手・支え手

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		計画		備考
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	
		水稻, ネギ	4.5 ha	水稻, ネギ	7.0 ha	
		水稻	0.4 ha	水稻	0.8 ha	
認農		水稻, 野菜	5.0 ha	水稻, 野菜	5.0 ha	
		ミニトマト, 春菊	0.1 ha	ミニトマト, 春菊	0.1 ha	
認農		水稻, 梅等	6.7 ha	水稻, 梅等	6.7 ha	
認農		苺	0.7 ha	苺	0.7 ha	
		水稻	2.0 ha	水稻	2.0 ha	
		野菜	4.5 ha	野菜	7.0 ha	
		水稻, 甘藷	1.1 ha	水稻, 甘藷	1.7 ha	
認農		ねぎ	2.0 ha	ねぎ	2.0 ha	
計	10人		27.0 ha		33.0 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

・農地中間管理機構の活用方針

地区全体で、農地中間管理機構を活用した農地の集積や、担い手同士の耕作地の交換等による農地の集約化に取り組む。

・災害等への対策の取組方針

市と連携し、田んぼダムを導入も視野に入れながら、地域で水管理に取り組み、水害対策を行う。
鳥獣被害対策については、被害発生場所の把握をし、侵入防止柵や檻の設置等を検討する。

・基盤整備への取組方針

岩原地区の耕作放棄地・遊休農地の解消、担い手へのスムーズな転貸に向け、圃場整備などの生産基盤の整備に取り組む。